

事務局：〒515-2321 三重県松阪市嬉野中川町 1524-121 竹田憲治方

メール takeda@zvtv.ne.jp ホームページ <http://mietyusei.bakufu.org/>

下久具の御頭神事

本稿は平成 29 年 2 月 4 日（土）に行われた「下久具の御頭神事」について、筆者が見学および聞き取りした神事の内容を報告するものである。

1 下久具集落の概要

下久具集落は現在の行政区分上は三重県度会郡度会町に属し、宮川右岸の紀伊山地の山裾に位置し、度会町役場からは宮川を挟んで南方に約 2 km の距離を測る。集落は「上り」、「中組」、「下り」、「山川」の 4 組で構成され、およそ 60 世帯である。

2 神事の時期および構成

現在、神事は保存会を中心に自治会役員らが協力して 2 月の第 1 土曜日に行われている。かつては旧正月 7 日に下久具地区の氏神社である八柱神社の甘酒神事に際して行われたとされる。地区の伝承では、宮川上流の田間集落に祀られていた雌雄の獅子頭の内、雌の獅子頭が最終的に下久具へ流れ着き、地区住民が拾い上げ祀られるようになったという。獅子頭は「オサキ」・「左京（サキョウ）」と呼称されていて、正徳元年（1711）に祀られるようになったという。当該神事に用いられる獅子頭は三重県有形民俗文化財に昭和 47 年の早い時期に指定されているが、神事に関しては、『度会町史』の他、櫻井治男氏によって紹介されている以外は情報が乏しい。神事は 19 歳の厄年にあたる青年によって舞を行っていたが、少子化や担い手不足により旧習は維持できていないようである。神事には「獅子舞」、「後舞」、「天狗」、「楽」などの諸役がある。なお、現在獅子頭を祀る安置所は昭和 40 年代初頭に老人クラブによって造られたもので、それ以前は海蔵寺に保管されていた。

3 神事の内容

<獅子頭安置所>午前 11 時ごろ

関係者が海蔵寺境内にある自治会集会所を出発し、集落の西端に位置するオカシラサン（獅子頭）を祀る祠へ向う。関係者によりオカシラサンが祠から出され、内城田神社の宮司により祝詞が奏上され、オカシラサンや関係者および住民が御祓いを受ける。その後、保存会により敷地内で舞が行われる。舞では太鼓（楽）のみを用いる。舞は天狗に先導さ

れたオカシラサンが「ハガミ」を行う。天狗役は天狗面を顔に当て、烏帽子を被り、腰に刀を差し、日の丸の扇子を手に持ちオカシラサンを誘導する。舞が終了すると、オカシラサンが神事に参集した住民の頭を噛んでいた。オカシラサンは集会所に運ばれ、入口に飾られる。なお、午前の時点で、海蔵寺境内には四方に竹が立てられ縄が結ばれ夜の舞の空間が準備されていた。獅子頭とともに、木製の巨大なしゃもじが確認できた。これは神事でふるまわれる甘酒に由来するもので、実際に使用しない象徴的なものである。当該神事は別名「甘酒神事」と言われ、甘酒を重要視していることが看取される。

＜遥拝所（旧八柱神社前）＞午後7時ごろ

かつて下久具集落の産土神である八柱神社があった場所である。現在は内城田神社に合祀されている。関係者は集会所から車で移動し、舞を奉納する。舞はまず天狗単独で行う。扇子を手にした天狗が、遥拝所を正面に、手を左右に振りながらスキップをして前進し、次に体の前で扇子を振り上げながらスキップして後退する。方向を変えながらこの動作を繰り返す。その後、オカシラサンによる舞が行われる。舞は獅子頭安置所で行われたのと同様「ハガミ」を行う。ハガミは北方向の遥拝所と南東および南西方向に向けて行う。保存会によれば、北は川向こうの内城田神社、南東は伊勢神宮、南西は熊野権現へ向けて行うものだという。ハガミの後、太鼓の楽調が変わり、天狗が誘導してオカシラサンが反時計回りに走り回りながらハガミを行う。この時、周囲の観衆からは「ダイジョウ」と囃しが入れる。この「ダイジョウ」は宮川の対岸棚橋集落で祀られるオカシラサンの呼称である。住民はオカシラサンが棚橋のオカシラサンと共に田間のヤンゼから流れてきた伝承を語っていた。舞が終了すると再び集会所へ戻る。

＜海蔵寺＞午後8時30分～

遥拝所での舞を終え海蔵寺に戻ると、オカシラサンと天狗は寺の軒下の向かって左側に安置される。境内には甘酒等が用意され、参観者にふるまわれていた。神事は寺の本堂を正面として行われるものの僧侶による仏教行為は一切なく、内城田神社宮司の参加もない。

舞はここでも天狗単独の舞から始まり、安置所や遥拝所と同じ動作であるが、最後に楽調が激しくなり天狗が境内を飛び跳ねる。この際、観衆から「ダイジョウ」と囃しが入る。

次にオカシラサンによる舞となり、ハガミが行われる。舞はこれまでと動作は同じであるが、境内の方形の場に合わせて四方向に行われる。この方向に意味があるのかは、保存会でもわからないとのことであった。次に、境内中央にムシロがしかれ、寺方向に獅子頭を向けてオカシラサンが寝かせられ、天狗がオカシラサンを検分するような所作が行われる。この後、立ち上がったオカシラサンは天狗にあやされるように頭を低くし後退するように舞い、獅子頭を反時計回りにゆっくり振る。これらの動作は「巴回し」と呼ぶとのことである。巴回しの後は再び境内中央にオカシラサンが寝かせられる。天狗はオカシラサンにまたがり、のけぞるような空を見上げ、天狗面の長い鼻をつかんで空に伸ばすような所作を繰り返す。その後再び巴回しが行われ、楽調が激しくなると天狗の誘導でオカシラサンが境内を走り回る。この時も観衆より「ダイジョウ」の掛け声が飛ぶ。これらの動作

が繰り返し行われる。

最後に鈴を持った天狗による舞が奉納され午後 10 時過ぎに神事は終了する。

4. まとめ

下久具の御頭神事は、かつては宮川から獅子頭を拾い上げたと伝承される中西家が毎年宿となり中心になって神事が執り行われたとされるが、現在は保存会を中心に海蔵寺にある集会所を拠点として実施され、他の御頭神事で見られるような祢宜や当番によって運営される頭屋祭祀の形態は確認できなかった。また、かつては 19 歳の青年男性が舞手を担ったとされるが、年齢階梯制もなくなっている。地区には神事に関わる古文書も残されているようであるが、過去の調査事例が乏しいこともあり、かつての神事の内容や変遷について不明な点が多い。このことは獅子頭が三重県の有形民俗文化財に指定された当時、一時的に神事が行われず獅子頭を飾るのみに衰微し詳細な調査がなされなかったことも影響しているといえる。

しかし、今回報告したように神事は保存会によって継承がなされ、芸能的な面から十分に調査対象として括目すべき内容である。天狗単独での舞やオカシラサンにまたがったの所作などの点から、下久具の御頭神事は天狗の持つ役割が大きいことが特徴といえる。対称的に同じ御頭神事であっても筆者がこれまでに見学した伊勢市上社や玉城町の田丸神社や有田神社の山田系とされる七起しの舞を伴う御頭神事では天狗が登場しない。このことは南勢地域の御頭神事を考える上で、重要な点であるように思われる。また、当該神事において地区の各所で行われる舞の内、オカシラサンによるハガミだけが各所で共通して行われていることから、神事の最も本質的な要素はハガミであるといえよう。ハガミは獅子頭の歯を打ち鳴らす行為で、音による祓いが本来的な意義であろう。

次に、棚橋の御頭神事との共通点について指摘したい。これまで両地区の御頭神事は、宮川上流の田間集落から一對の獅子頭がそれぞれの地区に流れ着いたという伝承ばかりが注目されるのみで、実際に神事の内容が比較されたことはなかった。しかし、両神事では獅子頭の歯を打ち鳴らして祓いを行う所作が確認できるだけでなく、「ハガミ」という所作の呼称そのものが一致する。ハガミは、先述したように当該神事における最も重要な行為であり、棚橋においてもハガミが最も重要な要素であることを拙稿で指摘したことがある。そして、棚橋では舞の際に下久具のオカシラサンの名称である「サキョウ」と囃しが入る一方、下久具では棚橋のオカシラサンの名称「ダイジョウ」と囃される。さらに、下久具における巴回しと棚橋におけるネジマイ、天狗がオカシラサンにまたがる所作（棚橋ではウマ）、太鼓の楽調など、伝承以外にも両地区で共通する点が極めて多い。両地区は宮川によって隔てられているがかつては船渡しで結ばれ、棚橋地区側に下久具区民の田畑があり棚橋池築堤の際には協力したとされ、関係性が深い。こうした歴史的環境および自然的環境の下、相互の神事にも影響があった可能性も考えられ、そのことが伝承を生む素地を醸成したとも考えられる。

下久具の御頭神事も、他の民俗行事同様に担い手の高齢化と不足の問題は深刻である。三重県教育委員会により平成 22 年度に記録動画の撮影が行われているが、さらに詳細な記録作成および聞き取りなどの調査が望まれる。本報告が神事継承への一助になれば幸いである。本報告の作製にあたりご協力をいただきました下久具地区の皆様にも末筆ながら感謝申し上げます。

(味噌井 拓志)



下久具の御頭神事 関連地図

<参考文献>

度会町 1981『度会町史』

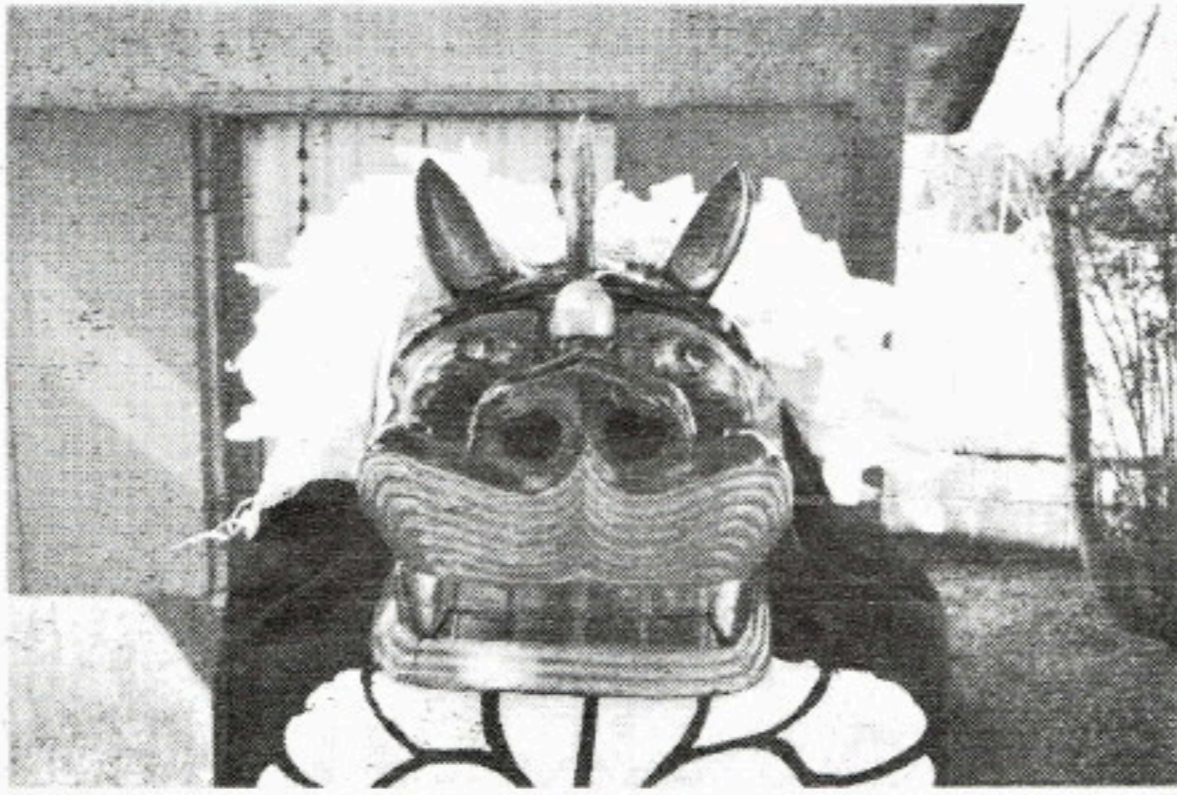
櫻井治男 1992「神社合併と村祭りの変化 旧内城田村（度会郡度会町の内）の神社合併と村祭り」『蘇るムラの神々』

鷺野正昭 1969「年中行事 度会村の年中行事」『度会・多気山村習俗調査報告書』

三重県教育委員会「下久具獅子神楽」 www.pref.mie.lg.jp/MOVIE/003639.htm

釜谷秀三 発行年不詳『たなはし』

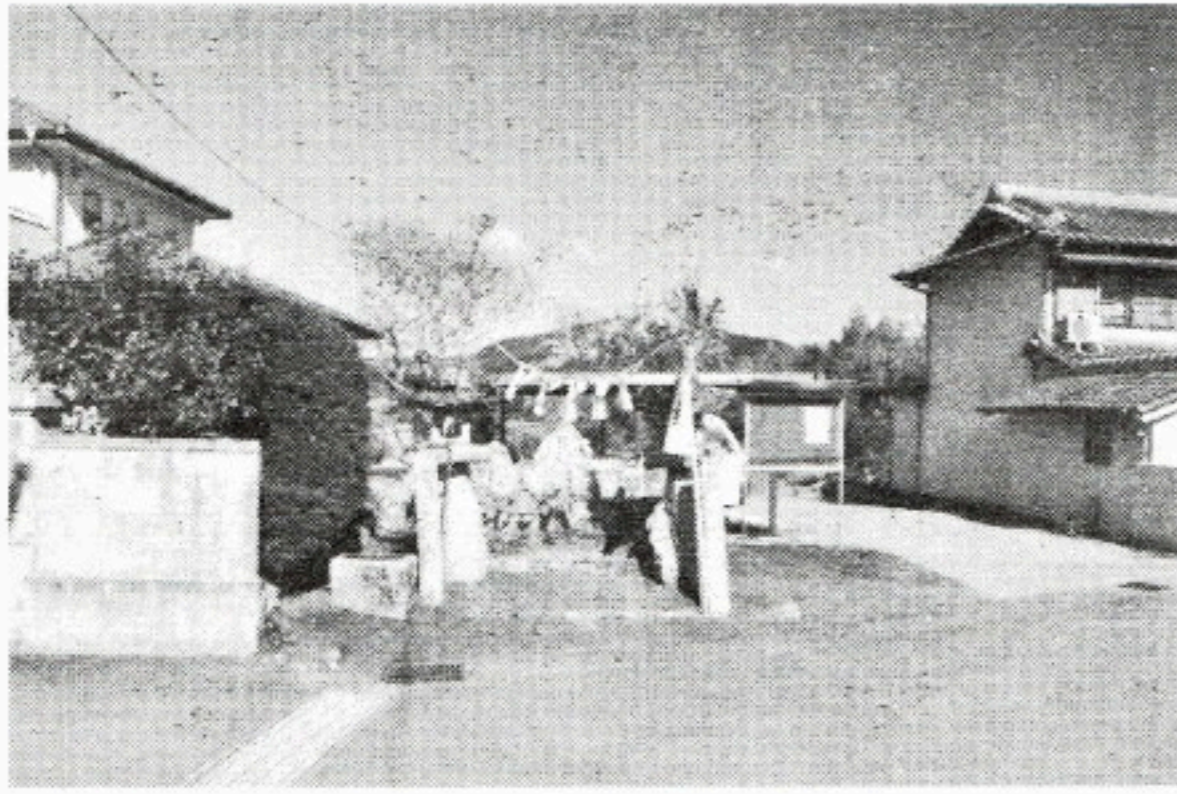
味噌井拓志 2017「平成二十七年以前の三重県度会町における棚橋の御頭神事」『三重の古文化 102』三重郷土会



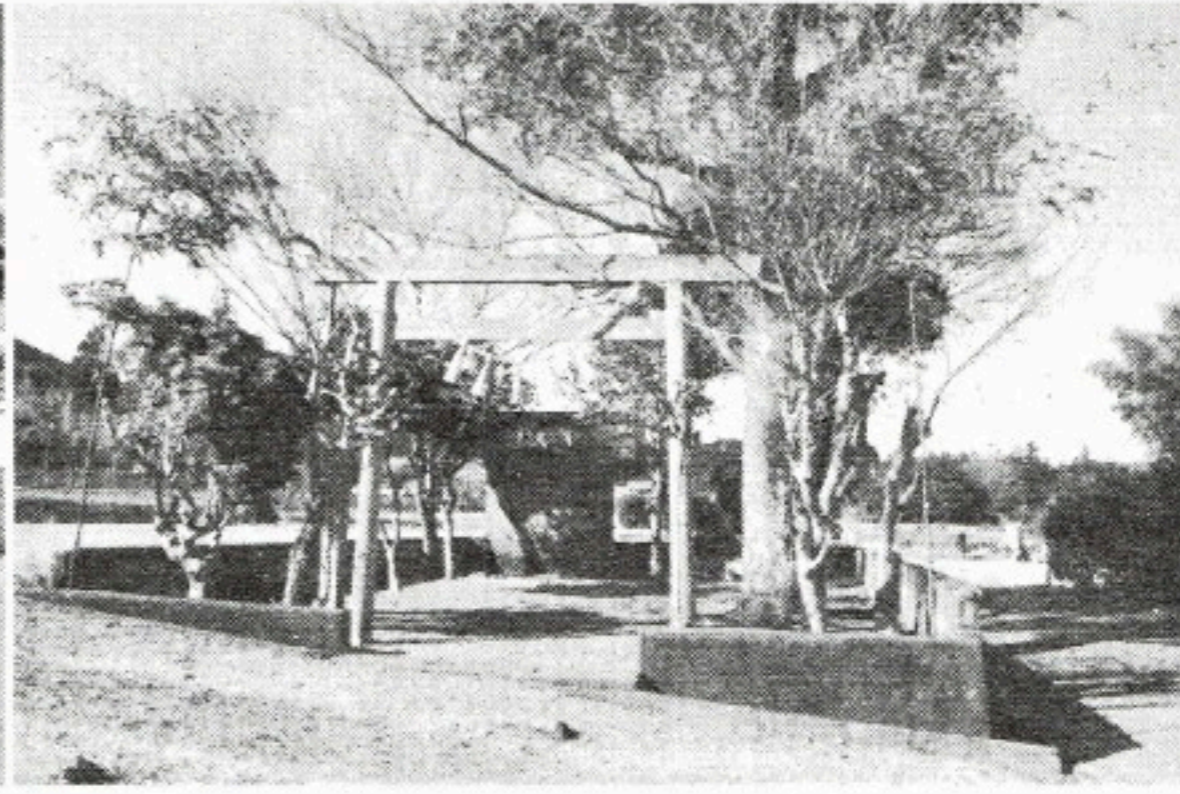
獅子頭「サキョウ」



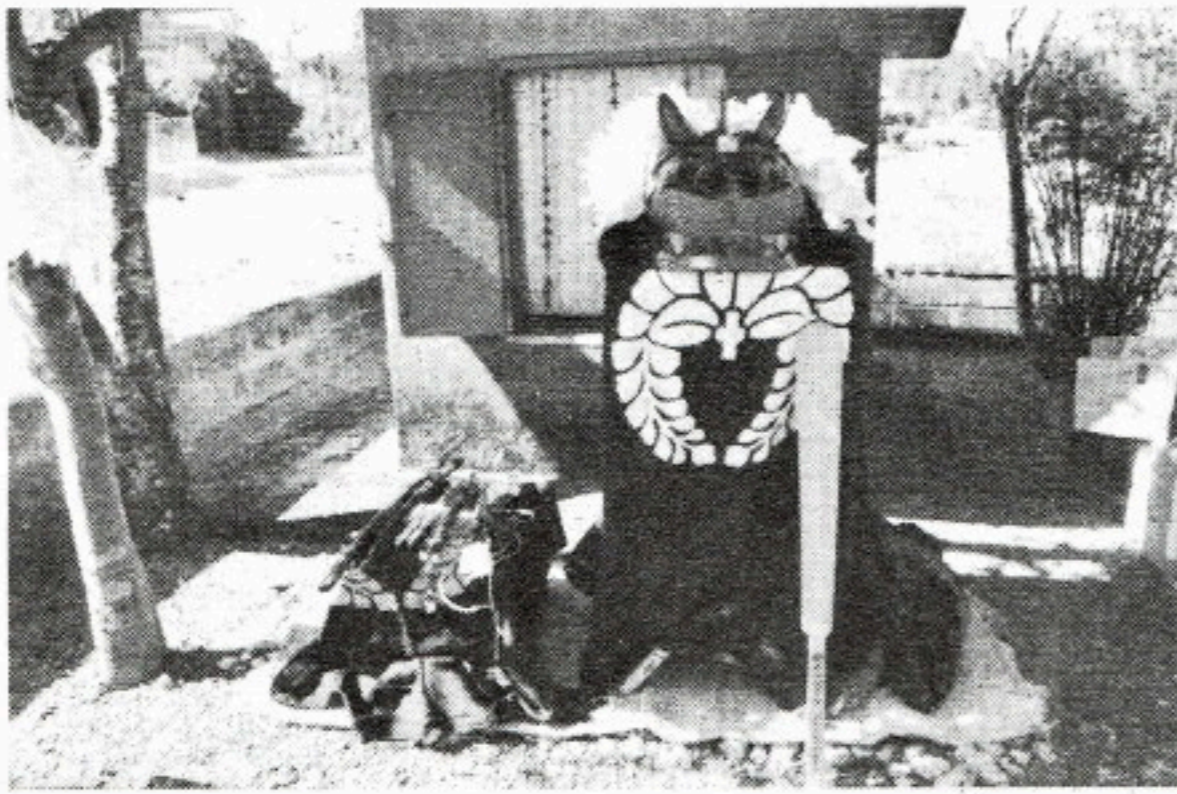
海蔵寺境内



遥拝所 (旧八柱神社前)



獅子頭安置所



獅子頭安置所



天狗面と持物



獅子頭安置所での舞 (ハガミ)



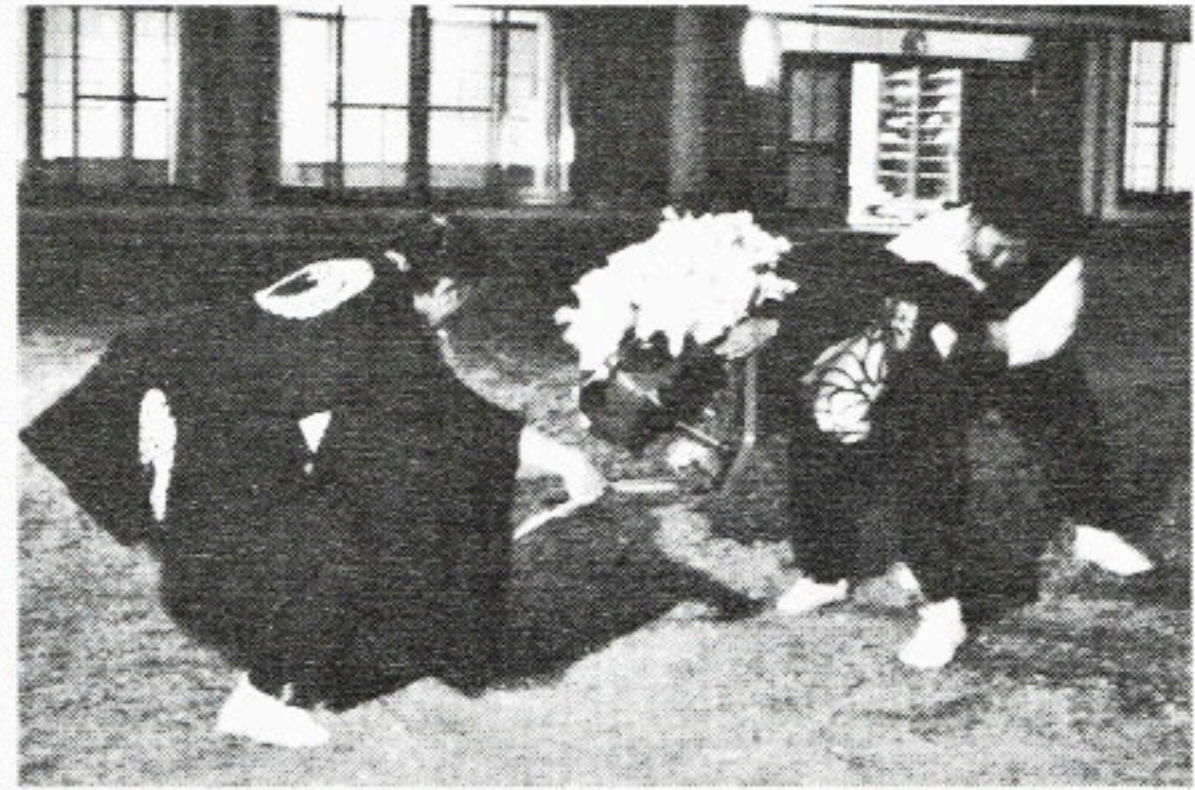
遥拝所での舞



甘酒のふるまい



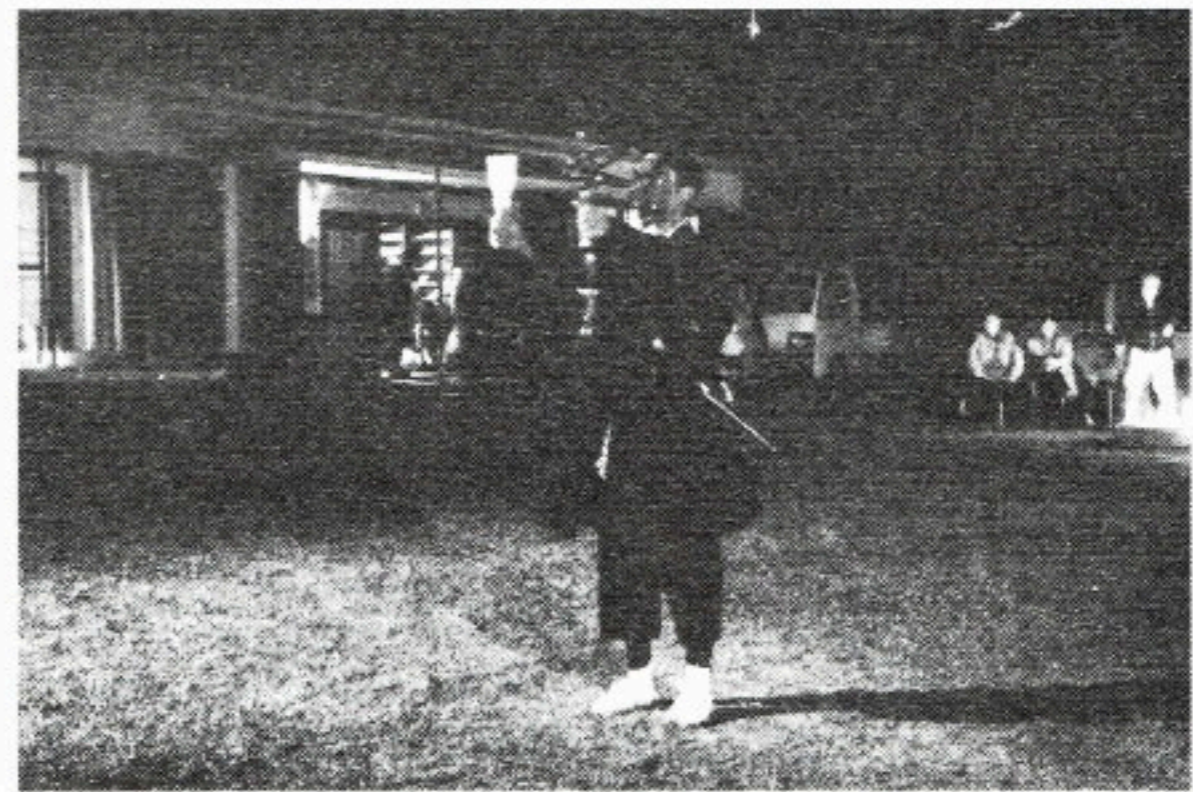
海蔵寺での舞



巴回し



海蔵寺での天狗の舞



神事の最後に行われる天狗の舞



会所での安置の様子